

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300497		
法人名	有限会社喜楽		
事業所名	グループホーム喜楽Ⅱ		
所在地	佐賀県鳥栖市弥生が丘2丁目6番地		
自己評価作成日	令和 元年 8月 13日	評価結果市町村受理日	令和1年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム喜楽Ⅱでは、必要な業務を最低限に行い、利用者様と接する時間を持つようにしています。業務に追われると、利用者様の気持ちや本音がうまく聞き出せない事もあるので、職員自身が時間に余裕を持つ事で、気持ちを聞き出し、言いやすくなるようにしています。転倒やケガを未然に防ぐ事や、利用者様と信頼関係を築く事で、安心感を得られるようにしています。職員同士がフレンドリーに接する事で、皆が仲間であると、利用者様に警戒をされないようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和 元年 9月 12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くにショッピングセンターや池のある遊歩道があり、日常の買い物や散歩に利便性が高い。少し離れたところに同会社のグループホーム喜楽があり、バーベキューや旅行等の大きなイベントは合同で行い、避難訓練は別の日に実施して、全職員が参加できるようにするなど、様々な工夫がみられる。管理者・職員は業務の工夫により、職員間、入居者とのコミュニケーションの充実を図り、入居者の意向をくみ取り日常のケアに活かしており、リビングに集う入居者の表情は明るい。また、職員による業務改善等の提案も積極的になされている。入居者・家族の意向を中心に看取りの体制を取っているおり、看取りの件数は増えてきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の玄関、ホール、事務所に運営理念を掲示して、職員の目の届くようにしている。新規職員には、口頭で説明をしている。	玄関、ホール等目につきやすい場所に理念を掲示しており、管理者から、職員採用時やミーティングの際に説明を行っている。職員間で共有し、問題が発生したときは、理念に戻って考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣さんとの挨拶、運営推進会議での民生委員さんとの交流、区長さんとの情報交換などで都度、新しい情報を取り入れている。	区長や民生委員と連携し地域情報を得て、ホームからは地域の掃除、こども110番、夏祭りへ参加、地域からはボランティア、子供神輿が立ち寄ってのお手紙やお菓子の交換がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	弥生が丘子供会からの依頼で、「こども100番」の加入継続。夏祭り時の神輿担ぎを施設で受け入れなど、協力できることは率先してさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での近況報告を行い、民生委員より町の近況を確認。行政とは密に連絡を取り、施設での講習会も開いて頂いた。	定期的に開催しており、会議の内容は全体会議で職員に伝達するとともに、伝言ノートに記載し、全職員に回覧し、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政とは、頻回に連絡を取っており、疑問や相談事は直接問い合わせている。	市の担当者とは常に連絡を取り合っており、情報共有に努め、疑問な点や問題解決に向けた相談は速やかに問い合わせる体制ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしてはいけないという旨を全職員に周知し、絶対にしない取り組みを継続している。	研修には積極的に参加し、会議の中で伝達を行い、身体拘束はしない、しないで済む方法はないかという共通認識を持ってケアしている。玄関の施錠はせず、職員はゆとりをもって、入居者のそばにいるよう心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で、虐待があった際の連絡体制を記入した用紙を貼りだしている。定期的に研修を受講し、あってはならない事を説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を受講し、学ぶ機会を作るようにしている。研修後は、施設内ミーティングにて周知を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する際は、立ち合い、分かりやすく説明をし、気になる事や分からない事は、その際に確認して、納得して頂いた上で、サインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご家族ともお会いする機会を設け、気になる事や、要望の有無を確認し、あれば職員に周知し、改善を図る。	家族の面会の都度、入居者の状況を報告し、要望を聞き、伝言ノートに記載するなど職員間で共有したうえで対応し、結果を家族に伝えている。その結果、面会は増えている。疎遠になりがちな家族には電話連絡し、手続き更新の際の来所をお願いするなど、必要に応じた連絡に努め、意見の把握と反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体カンファレンスを行い、職員の意見や気づきを聞き、改善が可能かどうかを話し合い、改善可能な点は、改善を行って、次回のカンファレンスで、経過を再度話し合う。	日常の業務の中で、管理者、職員のコミュニケーションをとり、カンファレンスや会議の中で意見が出やすいようにしている。具体的な提案が出され、実現に向けて知恵と工夫で解決している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者がスタッフとして勤務に入る事も多く、皆の動きや功績を都度認識したうえで、給与にも反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	向上心のある職員に、外部研修を進めて、研修中の気づきや不明点には、意見や改善点を一緒に考えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム管理者との、横の繋がりが多く持っていると自負しており、お互いが連絡を取り合い、相談や助け合いを意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初日は必ず立ち合い、本人様ご家族様と3者で会話をし、混乱や不安が無いように寄り添って、安心して頂けるように、都度会話をし、興味のある話題を早く見つけて慣れて頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をとにかく聞き、自宅での生活や大変だったことを確認、今後は任せてほしいとお伝えし、気になる事などを、遠慮なく言って頂けるような信頼関係を意識している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の意思を確認し、必要と思われるサービスは取次を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様がゆっくり過ごせる時間を設けており、利用者同士でなく、職員を入れてコミュニケーションを取り、不安や疑問の解決に徹している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には近況を報告したり、面会時も様子を見て間に入り、一緒に利用者様の意見を聞き出し、共感出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との面会は都度受入れをし、外出等は、ご家族様に確認をしたうえで、行っている。職員からも、帰り際に、また来てくださいと一声掛けている。	家族や友人の面会には、声かけやお茶出しで関係が途切れないよう配慮している。面会や外出に家族の了解が必要な入居者もあり、慎重に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する利用者様が出ないように、職員が間を取り持ち、皆で過ごす事を意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来るだけ、退居後も、状況を確認し、必要及び可能であれば、再度利用が出来るようには、意識をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りの希望は、通せるように、支援をしている。「帰りたい」など困難な希望は、傾聴し、話を逸らしたりして対応している。	入居者や家族が思いや意向を安心して出せるように、まず管理者、職員間のコミュニケーションをよくし、入居者や家族の意向をくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居初期に、本人の生活歴や趣味特技などを本人との会話で聞き出して、職員間で共有をし、生きがいを失わないように支援する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自個室があるが、引きこもる事の無いように、出来るだけ皆さんと共に生活出来るようにするが、一人になりたいや部屋で休憩したいなどは尊重し、適度に声を掛け、様子を観察する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身近な介護職員が、本人の生活を日々チェックし、家族への近況報告や相談を管理者が行い、ケアマネジャーに伝達して、今の本人に合う介護計画を作成して頂き、家族の同意を得ている。	カンファレンスで職員は意見を出し合い、入居者・家族の意見を聞き、介護計画を作成している。3ヶ月毎また必要に応じ随時見直しを行っている。短期目標を日々のチェック表に掲げ、目標に従ってケアを行うことで、実践状況の把握もしやすい工夫をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を全員が確認し、利用者様に対して間違いのないケア支援できるように、口頭での申し送り、伝言ノートの活用にて常に見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎朝の申し送り時に、当日の予定を踏まえ、無理のない業務を決定し、後にできた予定にも対応できるように、余力を残した業務を意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事や、近隣公園などでのレクリエーションや散歩などで、地域の雰囲気や街並みを認識して頂けるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診には職員が立ち会い、施設での状況説明、本人の気になる事、前後での家族の意見を主治医に伝え、本人様とご家族様が不安を覚える事が無いようにしている。	かかりつけ医の継続受診は可能であるが、往診または家族による送迎をお願いしている。緊急時など、必要に応じてホーム支援を受けることもでき、医療機関との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携で、健康管理を行い、必要に応じて、病院受診の同行にて、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と頻回に連絡を取り、現状、治療方針、経過、期間を確認しながら、出来るだけ施設でも受け入れられる体制を整えられるように準備をしている事を伝える。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設では、重度化した利用者様を預かる事が出来ない事を、事前に説明し、重度化になる前に、家族の意向を確認しつつ、終末期の対応も含めて理解と同意を頂ければ、施設での看取りを行うようにしている。	入居時に説明し、契約書に記載している。重度化や終末期を迎えた場合、入居者、家族の意向を中心に主治医の説明を受け、対応を協議し看取りの同意書を取って、看取りを行うなど、方針の共有と入居者に応じた支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事故発生時は、管理者に連絡。状況により、消防救急警察へと連絡。手当に関しては救急隊の指示に従うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災・震災計画書があり、閲覧できるようにしている。年2回の消防訓練で火事の対応を改めて認識するようにしている。	防災マニュアルに基づき年2回夜間想定避難訓練を実施している。系列のホームと別の日に実施し、夜間勤務職員を含む全職員が参加している。日頃の地域交流の中で、住民への協力の声かけはなされているが、訓練等への参加はこれからである。	運営推進会議や地域交流を通じた声かけから、消防団や地域住民にホームへの理解や災害訓練への参加への更なる取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を人生の大先輩と称して、尊敬する意識を常に持ち、自尊心を傷つけないように丁寧な態度で接するようにしている。	入居者一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや態度に配慮し、管理者・職員間で注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をすることも、強要はせず、本人の意思を確認した上で、業務やレクリエーションを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の、その時の体調や、気分を確認し、出来るだけ無理をしないように過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服は職員と共に決めてから、着替えるようにしている。アクセサリーや指輪などは、本人の自由にしてはいる。職員が身だしなみをきちんとし、見本になるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者様の好みを出来る限り取り入れるよう、利用者様とも相談しながら決める。片付けも手伝って頂けるように声を掛けているが、強要はしない。	献立は入居者も一緒に考え、買物にもできるだけ一緒に行っている。家族等からの食材の差し入れ等あり、料理の下ごしらえや食器ふきなどできることを手伝っている。春・秋は家族も参加し、バーベキューを楽しむことができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は記録に残す。水分量の記録は無いが、水分摂取が少ない利用者様には、職員が付いて水分量の確保を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、就寝前に義歯を預かっての洗浄。職員による口腔ケアの実施。定期的な歯科診療にて、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗をしても自尊心を傷つけないような声掛け対応。定期的なトイレ誘導声掛け。夜間も定期的に様子を伺い、覚醒時は、トイレの声掛けを実施。	排泄チェック表を基に入居者の排泄パターンをつかみ、声かけやトイレへの誘導を行っている。できるだけトイレで排泄できるよう、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて、排便の有無を確認し、乳製品の提供、下剤での対応にて便秘の状態を改善できるように、個々別々での対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に、体調の確認を行い、入浴する意思を聞き、可能な限り希望者は入浴を行う。拒否する方も、やさしく声を掛け、定期的に入浴して頂いている。	週2回は入浴するようにしている。入浴時間等について、入居者の好みを考慮しながら、気持ちよく入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活スタイルを把握し、定期的に声を掛けて、必要な方には居室での休憩を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導時の申し送りを、記録に残し、情報の共有を徹底して行い、気になることは、主治医や薬剤師に確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を生かしたレクリエーションの実施。職員の手伝いを行い、自身の必要性を感じて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に出かけることや、外気浴、近隣への散歩など、その人その人の能力に合わせて実施している。	日常的に食材の買い物への同行、近くの池の遊歩道への散歩を楽しんでいる。年2～3回マイクロバスでの外出をするなど、戸外に出る機会、楽しみづくりを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の所持は遠慮しているが、家族の同意にて所持していることもある。他者と揉めることの無いように気にしている。買い物は職員との同行で対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、電話の取次ぎや連絡を行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには最低限の物のみを置き、季節感を出すため、皆で作った貼り絵を掲示して四季を感じて頂くようにしている。	共用スペースは明るく、清潔である。ゆったり過ごせるよう配置されており、入居者の手作りの貼り絵を飾るなど、季節感を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所や、普段過ごす場所は、ある程度決めておき、利用者様同士の混乱が無いようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人が自宅で使っていた物や、思い入れのある品物を、家族と相談しながら配置し、自宅にいるような感覚が持てるような雰囲気作りをしている。	入居者・家族と相談して、ベッドや家具が配置されており、どの部屋もすっきりと片付いている。使い慣れた品を持ち込み、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとし、各箇所に手摺り、全ヶ所開き戸にて安全を確保できるようにしている。施設内を1周歩けるようにしており、歩行練習が可能である。		